



高館前の特設ステージでの豆打ち式



# 宗像



平成ノ大造営

時満ちて  
道ひらく

## 無病息災・災難消除を祈り 大節分祭を齋行

二月三日、「宗像大節分祭」(共催・宗像観光協会)が行われた。早朝より雨が降り、時折雷もなり外での開催が心配されたものの、祭典開始時には、雨も止み「福」を授かろうとする参拝者が参集し、大いに盛り上がりを見せた。

本来、節分とは季節の分かれ目を指す言葉で、立春・立夏・立秋・立冬の前日の意味であるが、よく「立春をもって年とり」といわれるとおり、旧暦では立春を一年の始めとしており、春の節分を特に重視していたことから、今では立春の前日のみを意味するようになった。



節分祭祭典

### 余滴

昨今、世の中や人々の意識が急激に変化している感覚を抱く方も多いだらう▼神社を取り巻く環境は、少子高齢化や人口の都市部集中による地方過疎化により厳しさを増している。山間地域や離島を中心に、いわゆる「限界集落」問題として、集落そのものの消滅が危惧されている▼もとより、多くの神社の運営を支えているのは高齢者が中心である。その一方で、こうした方々の跡継ぎの多くは、その土地を離れ都市部へと移住し定住が進み、墓所も移ることもあるようだ。神社は古

へより地域の氏神様として、皇室の弥栄・国家の繁栄はもとより、その土地で生活を営む人々の安寧を願い、氏子と協力して祭祀を執り行い伝統行事を継承し、地域共同の核として存在してきた▼郷土愛、地方の歴史への誇り、自然と共存する営みの大切さ、守り伝えてきた神事、伝統行事、その継承の喜びと大切さ。そうしたものを揺り起こし、ふるさとの人々が一体となり時代の流れとともに新しさを求めて、その地に住むことの喜びを次世代へと伝えていかなければならない。(神)

神具・装束・授与品



装束店  
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980  
授与品店  
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

一月三十一日、氏子青年会の奉仕により豆打式の特設舞台を齋館前の広場に設けた。

二月三日、先程までが嘘のように雷雨の止んだ定刻十一時、本殿にて節分祭を斎行。責任役員・氏子総代会・消防団など豆打式奉仕者を始め、氏子会評議員の方々も参列され



鳴弦の儀

る中、葦津宮司が災難消除・延命招福を祈念する祝詞を奏上、次に神職二名が拜殿の左右に分かれ、「鳴弦の儀」を行い、一人は天に向け、もう一人は地に向け矢を射る所作をし、弦を三度鳴らし天地の邪気を祓い清めた。

祭典後、神職・豆打式奉仕者は齋館前に設営された特設舞台に

移動し、葦津権宮司が一年の無病息災を祈念し「鬼は外、福は内」の発声と共に福豆が撒かれた。今年の福を授かるうと集まった多くの参拝者は高宮参道に列をなし、一般参拝者の入場制限を行いながら、四回の豆



巫女による福豆の奉製作業

撒きが行われ、黄色い声援が神苑にこだました。本年も宗像観光協会をはじめ、宗像大社氏子青年会・宗像歴史観光ボラティア等、御協力頂きました団体各位には衷心より御礼申し上げます。

### 紀元祭 齋行

二月十一日、神武天皇御即位のこの

日、我が国、建国の事跡を祝う紀元祭を本殿にて斎行。皇室の繁栄と国家の発展を祈念する祝詞を奏上し、巫女による浦安舞が奉奏された。

今年には皇紀二千六百七十六年にあたる。皇紀とは神武天皇が橿原宮（現在の奈良県）で即位式を挙げられた年を元年とすることに基づく我が国独自の紀元である。建国の歴史が神話の時代まで



ここで記すのが主となり、嘆かわしいかぎりであるが、我々はこの日の意義を充分に認識し、世界でも有数の文化・歴史を有することを子孫に継承していかねばならない。

遡る国は、かつて他にも存在したが、連綿と続いているのは、日本のみである。近年では、西洋暦の表記の上で「平成」の元号表記をかつ



観光協会の観る舞いおしるこに遊ぶ園児



氏子青年会の奉仕による特設舞台の設営

# 天皇皇后両陛下比律賓共和国ご訪問

フィリピン

天皇皇后両陛下には、去る一月二十六日より三十日のご日程でフィリピン共和国に行幸啓遊ばされた。本年が両国の国交正常化六十周年にあたることから同国大統領からの招請をお受けになられたもので、ご慰霊の思召しをもつての今回のご訪問となられた。



行幸啓安泰祈願祭



雪の残るなか参進

そして羽田空港では、皇太子殿下ご夫妻をはじめ皇族方のお出迎えをお受けになられ三十日夕に還行啓遊ばされた。

この海外ご渡航にあたり全国の神社では、ご安泰を祈る臨時祭典が齎された。この海外ご渡航にあたり全国の神社では、ご安泰を祈る臨時祭典が齎された。この海外ご渡航にあたり全国の神社では、ご安泰を祈る臨時祭典が齎された。



豆切ちし

# 中津宮節分祭

筑前大島の中津宮でも二月三日に節分祭が行われている。

午前十時より境内では祭典に先立ちぜんざいが振る舞われ、島内より多くの参拝者が参集し賑わいを見せる中、定刻午前十一時、本殿にて節分祭が齎行された。引き続き豆

打式では、神職・沖中両宮奉賛会会長・同翼賛会会長・同敬神婦人部部長をはじめ、本年還暦を迎えた年男・年女等が、袴・千早・法被姿に



境内で振る舞われたぜんざい



身を包み、福豆・紅白餅・奉納されたお菓子等を撒き、本殿周辺は瞬間に熱気に包まれ、各々福運を手にした。毎年お菓子を御奉納頂いております、藤島聡様・松尾商店様・高島商店様、又もち米を御奉納頂きました還暦同年講の皆様には、書面を以って厚く御礼申し上げます。

# 第42回 文化財防火訓練を実施

## 国宝・文化財の保護、防火意識を再認識

文化財防火デーの二月二十六日に、今年で四十二回目の文化財防火訓練が、宗像大社自衛消防団・宗像地区消防本部・宗像市消防団(第一・三・八・十一・合同分

団)・宗像市女性消防団から一五名が参加し行われた。本年は第二駐車場から出火し、重要文化財である本殿・拜殿、国宝や重要文化財を収蔵展示する神宝館に火勢が迫っている想定で行われた。

午前九時五十分、第二駐車場にて火災を発見した神職が、社務所に連絡し、社務所から



祈願殿での一斉放水



神職と地元消防団による消火

一一九番通報。職員は直ちに火元に駆けつけ、巫女と女性消防団はバケツリレーを開始、神職・管理員は可搬式ポンプを心字池よりホースを延ばし、地元消防団と共に放水を行い、初期消火にあたった。

続いて、強風により祈願殿に延焼拡大した想定で、午前十時、宗像地区消防本部・宗像市消防団の各消防車両がサイレンを鳴らして第一駐車場に集結。各隊は配置につき祈願殿に向かって一斉放水を開始、本番さながらの統制の取れた消火活動が繰り広げられた。

消火活動終了後、訓練参加者は第一駐車場に集合し、宗像地区消防本部消防長門脇豊氏、宗像市長谷井博美氏による講評がなされ、葦津宮司が防火訓練の御礼挨拶を行い、訓練が終了した。また、同日午後二時より宗像地区消防本部の指導に

よる救命講習を清明殿にて開催し、AED(自動体外式除細動器)、心肺蘇生の方法を約二時間ご指導いただいた。

文化財防火デーは、昭和二十四年(一九四九)一月二十六日、世界最古の木造建築である法隆寺金堂の壁画が焼損したことを契機に、文化財保護のため、さらには一年の内で一・二月は最も火災が発生しやすい時期であることから昭和三十年に定められた。以来、毎年この時期には文化財所有者・各関係機関が協力し、防火剤防火運動を行っている。

当大社では昭和四十六年に斎行された「昭和の大造営」を機に毎年実施するようになり、今年で四十二回目を迎えた。当大社が収蔵する貴重な文化財を守り伝えるため、職員の防火意識を再認識する良き訓練となった。



巫女による消火器での初期消火



訓練後の講評

# 明治記念館で東京交流会を開催

## 世界遺産と鐘崎天然とらふくを東京でPR

(宗像市世界遺産登録推進室)

二月十一日、明治記念館(東京都)において、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 東京交流会が宗像・沖ノ島世界遺産推進会議の主催で開催された。この会は、鐘崎天然とらふくフェアin東京2016との共同開催であり、東京交流会の主催者の小川洋

宗像・沖ノ島世界遺産推進会議会長(県知事)、ふくフェアの主催者の中村忠彦ふくフェア実行委員長(宗像漁業協同組合組合長)の他、遺産群の価値証明等に携わった専門家や情報発信力の高い文化人やメディア、企業、また都内の鐘崎天然ふく取扱業者等、約二二〇人も関係者が参加、宗像大社からは葦津宮司が参加した。

交流会では、平成二十九年の世界遺産登録を目指す遺産群や、鐘崎天然とらふくの説明が行われ、世界遺産登録に向けた遺産群への応援者の拡大、また首都圏における鐘崎天然とらふくの供給拡大が期待される実り多き会となった。



壇上で挨拶する葦津宮司



福岡県知事

### 宗像市世界遺産シンポジウム

- 日時 平成28年3月19日(土曜日) 10:00~12:30(開場 9:30)
- 場所 メイトム宗像(多目的ホール)
- 入場料 無料(※要申込み)
- 定員 180名 ●対象 一般

# 景観と調和した世界遺産のまちづくり

#### スケジュール

10:00 - 10:05	開会あいさつ
10:05 - 11:00	基調講演「世界遺産への取り組みを考えよう」 — 石見銀山における体験から — 中村 俊郎 (中村ブレイス代表取締役社長)
11:15 - 12:25	パネルディスカッション 「景観と調和した世界遺産のまちづくり」
パネリスト	中村 俊郎 葦津 敬之 (宗像大社宮司) 小林 正勝 (宗像観光協会会長) 仲間 浩一 (宗像市景観アドバイザー)
コーディネーター	広瀬 靖浩 (NHK アナウンサー) 総合司会
12:25 - 12:30	閉会あいさつ



辺津宮からの遠景



大島島内の風景



玄海地区の風景

【お問い合わせ・お申し込み先】宗像市世界遺産登録推進室 0940 - 62 - 2617 ※定員になり次第締め切り

時満ちて道ひらく

# 造営日記 ②4

## 〜平成二十八年度より 第二次造営を開始〜

平成二十五年度より「平成ノ大造営」として、沖津宮・中津宮・辺津宮の修復事業を進めている。殊に辺津宮については、昭和四十四年から四十六年にかけて行われた「昭和の御造営」において宗像祭祀の齋場の復興を成し遂げ現在に至る。しかし四十年以上の月日が経ち、現在各所には傷みが見受けられ、再整備の時期を迎えている。

第一次事業としては、辺津宮本殿及び拝殿の屋根葺替を主とした保存修理を行い、併せ防災設備の改修を行った。辺津宮遷座祭においては、多くの皆様にご尽力賜り厳粛に恙無く齋行でき、衷心より感謝申し上げます。

また、平成二十六年には自然災害により沖ノ島法面の崩壊、また沖津宮遙拝所に損壊が生じ、

急遽今年度に双方の災害復旧工事を行い、昨年末に完了した。

来年度から第二次造営期間となり、予定されている事業としては、沖津宮社殿や中津宮損社の御嶽神社、それに辺津宮の第二宮・第三宮等の修復である。今後も信仰の場を優先して造営事業を展開し、第二次後半から第三次にかけて三宮の社殿以外の諸施設を改修する予定である。

### 第二次事業予定

(平成二十八年〜三十年)

■沖津宮 本殿及び末社修復

■中津宮 御嶽神社修復  
【中津宮損社】

■辺津宮 第二宮 第三宮修復

撰末社修復  
勅使館改修  
諸整備



中津宮【御嶽神社】



辺津宮【第二宮・第三宮】



沖津宮【本殿】

## 春まつりの御案内

春季大祭を下記行事日程で齋行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。



主基地方風俗舞

- ◆3月31日(木) 午後5時 総社地主祭
- 午後6時 宵宮祭
- ◆4月1日(金) 午前11時 一日祭(氏子奉幣・主基地方風俗舞・浦安舞)
- ◆4月2日(土) 午前11時 二日祭(海洋神事功労者表彰)
- 午前11時40分 宗像護国神社春季大祭
- 午後2時 高宮祭、第二宮・第三宮祭、交通安全講社祭
- 献茶祭(南坊流・花田社中)



第六五五回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 日の里 秋吉 喜範  
空と海その間に見ゆる沖ノ島遠くに霞む初春の朝

評 大きい景がお正月らしい。ぶつぶつと言葉が切れた感じがあるので二句以下へその間に遠く沖ノ島霞みつつ見ゆるとして。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

追ひつきて早や追ひ越して亡母の齡孫も曾孫も抱きて育てし  
人生を顧みる歌が多い作者らしい歌。上句の語順を変えへ亡き母の齡に追いつき追ひ越してとしてみた。

宗像市 富田 山本 静子

本を読む少女の目線美しきかな小さきほぐろホッペに二つ  
読書する少女を可愛く思う作者がよく出ている。二句目線は(目元)、四句ほぐろは(ほくろ)に。

福津市 若木台 山崎 公俊

着ぶくれて湍津姫さま在さむや大島の空に雪雲かかる  
自由な発想が楽しい。中津宮の湍津姫神は雪の日は何をお召しになるのだろう。

宮若市 宮 田 本田エリナ

夕陽受け映える山々眺めつつ帰りのバス待つ三ヶ日かな  
お母様を見舞った帰りと自注があったのでそれを入れて、夕つ日に映える山見てバスを待つ三が日母を見舞いし帰りとしてみた。

宗像市 多禮 早川 祥三

意を決つし散髪帰りに出会う風骨伝導のごときゆさぶり  
意表を突く比喩が新鮮。散髪帰りの頭に風が吹くと骨伝導のように頭に直に振動を感じたのだ。初句は(久々の)と軽く。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

ワンクリックで逝きし友の名PCのディスクに沈め次へと進む  
作者によれば名簿の名を消したとのことなので、三、四句を(ハードディスクの間に沈めて)では。

宗像市 池田 森 龍子

雪らしき雪も見ずして早や梅は淡き日射しに木肌色づく  
暖冬の梅の木肌に変化を見つけた作者の目の細やかさ。二句は(雪も降らねど)。

宮若市 水原 吉崎美沙子

人波は分れ再び閉じらるるキャリアバックを引く幼子に  
モーゼの出エジプト記を連想する。下の句(キャリアバック引く幼通りに)。

宗像市 田久 巻 桔梗

夜の更けを木々さみさみし蒲団出すおくくふさに負け足をすくめぬ  
下の句が面白い。今は起きているのか、寝ていて布団をもう一枚足すのかが分かるように。

◆ 選者詠

おもてうらリネンで拭けば過去などはあらざる顔の白き洋皿  
酒呑めぬ父が好みて聴きてみきビール讀ふるドイツ学生歌

第六二八回

俳句作品集

宗像市 多禮 早川 祥三  
湯どうふの膝を崩してゆく白さ  
宗像市 武丸 白土 凌一  
初日の出拜んで楽し今年かな

3月祭事暦

- 1・15日 月次祭 午前10時～ 高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～ 総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
- 4日 氏貞公墓前祭 午前11時～ 於=氏貞公墓前 (宗像市上八) 本年は神式で齋行
- 19日 松尾神社祭 午前11時～ 於=境内松尾神社
- 20日 皇靈殿遙拝式 午前10時～

編集後記

本命チヨコ、義理チヨコ...自分ほもらえるのか...。なんとなく気にしてしまふ二月十四日「バレンタインデー」。少し調べてみました▼起源は三世紀のローマ帝国...、日本では昭和三十三年にチヨコレート業者が行ったセールで広がり、五十年代に入ってから定着、チヨコレートを送るのも日本独自の習慣だとか▼お中元やお歳暮と同じように「いつもありがとう」ございます。これからも宜しくお願いします▼そんな感謝の気持ちでこめられた贈り物であるバレンタインチヨコは、今では人と人をつなぐ一つの文化になっている▼日本人の持つ、神道の持つ多様性...とは違っても知れませんが、チヨコから少し勉強させて頂きました▼因みにホワイトデーは当社の御神業(サブレ)を奉製頂いている石村萬盛堂が元祖(発案)とも言われているようです。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会  
住所 〒811-1350 福岡県宗像市田島233-1  
電話 (0940)621-3111 (一代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕  
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円